

令和5年度旭川未来会議2030 報告会 会議録

1 開催日時 令和5年10月24日（火） 午後6時30分から午後8時30分まで

2 開催場所 旭川市市民活動交流センターC o C o D e ホール
(旭川市宮前1条3丁目3番30号)

3 出席者（参加者） ※敬称略，五十音順

(1) 女性活躍分野

伊賀康博，江良万里子，及川雄太，川村健太，坂井寿香，相馬淳，
高橋和恵，難波俊哉，長谷川愛実，早川舞，山田貴子

(2) 障がい者スポーツ分野

赤堀達也，五十嵐真幸，内村隆一郎，今野征大，塚田鉄平，藤田佑平（オンライン参加）

(3) ものづくり分野

岡崎茜，蔵重幸代，小沼隆礼，佐藤公哉，張江幸智，星野智哉

(4) 文化分野

小沢和雄，佐藤真由美，柴田望，竹中英泰，田中楓，野口博人，東方鳳山

(5) 子育て分野

喜多柚月，田中慶人，早川由理，丸山恵理

(6) 環境分野

近藤貴彦，難波和枝，橋口新平，濱本祐愛乃，原口真梨子，吉田小夏

4 出席者（市側）

今津市長

森本C D O

石川C D P

大貫氏（株式会社K E S I K I）

（女性活躍推進部）片岡部長

（女性活躍推進課）松山課長，藤田課長補佐，青木主査，麻生

（福祉保険部）高越次長

（障害福祉課）遠藤係長，大谷

（観光スポーツ交流部）菅原部長

（スポーツ課）松田課長，大野主査

（経済部）三宮部長

(産業振興課) 住吉課長, 茂木課長補佐
(社会教育部) 佐藤部長
(文化振興課) 坂本課長, 松里文化ホール担当課長, 小川主査
(子育て支援部) 浅田部長, 竹内次長
(子育て支援課) 高橋主幹, 清原主査
(環境部) 富岡部長, 松野郷次長
(環境総務課) 安富ゼロカーボンシティ担当課長, 宮田主査
(総合政策部) 熊谷部長
(広報広聴課) 中屋課長, 山本係長, 乙坂主査, 小笠原主査, 吉岡, 浦瀬
(政策調整課) 丸山主査, 石田主査, 大島主査
(秘書課) 岩城主査 (市長随行)

5 会議の公開・非公開 公開

6 傍聴者 6名 (市民等：4名, 報道機関：2名)

7 会議概要

(1) 市長あいさつ

(市長)

本日は、旭川未来会議2030の報告会に御参加いただき誠にありがとうございます。

また、これまで、各分野別の会議にも御参加いただき、御議論いただきましたことに感謝申し上げます。

今年の旭川未来会議2030は、「女性活躍」、「障がい者スポーツ」、「ものづくり」、「文化」、「子育て」、「環境」の6分野を設定させていただきました。

どの分野も、市の施策の中で重要なもので、市民の皆様の御意見を伺い、施策に反映していきたいと考えているものです。

昨年もこの未来会議から御意見を頂いて、例えば、農業分野では、旭川ゆかりの著名人やインフルエンサーを起用したPR活動ということで、下國伸シェフに御協力いただいて、食べマルシェをはじめとする様々な機会、下國さんの料理を通じて旭川の農畜産物をPRする取組を進めているところです。若者分野からは、投票証明書を発行してはどうかということで、参議院議員選挙で実現をし、投票カードを持って行けば割引を受けられるという取組をスタートしているところです。

今日頂いた御意見をでき得る限り次年度の予算に反映すべく、本当に楽しみに、わくわくした思いで聞かせていただきたいと思いますので、どうか皆様にはきたない御意見をお聞かせいただきたいと思います。

今日はオブザーバーとして、森本CDO (チーフ・デジタル・オフィサー)、石川CDP (チーフ・デザイン・プロデューサー) に参加いただいています。

今日は、限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いします。

(2) 各分野報告

ア 女性活躍分野

(参加者から報告)

【スライド1】

女性活躍分野の発表をさせていただきます。

私たちは女性の「できる」を実現するということをテーマに話し合いを進めてきました。

【スライド2】

まず、私たちは会議の中で前提条件として、「女性活躍」が実現した社会とはどのようなものなのかということを考えました。

そして、その結果、女性に負担がなく、働きやすく、意見が言える環境というものをゴールとして設定しました。

【スライド3】

では一方で、今の旭川の現状はどうなのでしょう。

女性に対する思い込みや偏見、女性の労働環境、色々な場面での女性の参画が不十分、以上三つのことにより、理想と現実ギャップが生まれているということが分かりました。

この現状とギャップを解決することができれば、女性が活躍できる旭川になると、取組内容を考えました。

【スライド4】

今回は具体的な施策として、「働き方に関する体験機会や個別アドバイスの提供」と「共働き家庭へのサポート体制の構築」について御提案をさせていただきます。

【スライド5】

一つ目の提案は「あさひかわ 女性のキャリアの保健室」です。これは、専門アドバイザーがテーマ別に「日替わりセンサー」となり、ズバリ、まるっと働く女性の悩みに寄り添う相談窓口です。

【スライド6】

コンセプトは「保健室」。保健室といえば癒しや安心をもらえる駆け込み場所です。「女性のキャリアの保健室」は気軽に抱えた悩みに応急処置ができる場所であり、「できなくなりそう」といった思いを「できる」に変える取組です。

【スライド7】

働く女性たちは今日も悩みを抱えています。職場で言えない言葉を飲み込んだり、子どもの寝顔を見ながら涙をこぼしたり。それでも頑張って笑顔を作っている女性が旭川にはたくさんいます。思い切って夫に聞いてもらっても答えがずれていてかえってモヤモヤしてしまうこともあります。

限界を超えている女性には早めの応急処置と対策が必要です。でも、現状は増加する共働き

世帯、働く女性に向けたサポート体制は少ないままです。アドバイスや支援を受けられる情報は得られない忙しい毎日で、助けになりたいと考える専門家がいてもつながるチャンスがありません。

【スライド 8】

男性にも当然悩みはあると思います。でも、働く女性の悩みには、出産かキャリア形成かといった人生の分岐点となる決断があったり、母性か仕事かと揺らぎ、働き方について夫婦の価値観のずれに悩み、更年期の健康課題、時間やお金のバランスに悩んで、いっそのことと起業を模索する人もいます。

【スライド 9】

そうした複雑で多様な背景を持つ「女性の悩み」に寄り添い、五つのテーマごとに専門相談員である「センサー」を配置し対応するのが「あさひかわ 女性のキャリアの保健室」です。相談者は悩みに該当するテーマで月曜から金曜まで日替わりで専門的なアドバイスを受けることができます。個室にこだわらずに、明るい新庁舎のフリースペースでコーヒーを片手に相談ができる雰囲気づくりも良いと思います。

【スライド 10】

そして、事業の周知も非常に重要と考えます。取組も市民に届かなければ意味がありませんので、「女性のキャリアの保健室」をまずは身近に知って、見て、体験してもらうためのPRイベントを開催します。企業も巻き込み、従業員に窓口の存在を知ってもらい、忙しい稼働年齢層も簡単にアクセスできるSNSも活用し、せっかくの取組を知らないということを解消します。

【スライド 11】

合言葉は「そうだ 保健室に行こう!」。取組の先に待っている未来としては、「私には相談できる心強い味方がいる」と安心できれば、女性の就労継続と前向きなキャリア形成ができ、働きがいが生まれます。取組が企業にも広く浸透すれば市内全体でより良いワークライフバランスが実現され、支援したいと考える人たちにとっても、スキルの活用ができ雇用の場が広がり互いのマッチングが可能になります。外的支援だけではなく内面からも女性活躍に本気で取り組む「旭川市」を大々的にPRできると、「安心して働けるまち」として魅力と期待が増し、若い世代にも親しまれ、市外から多くの人を呼び込めると思います。

女性の笑顔と共に。

女性の「働く」を支え、地域活性につなげる事業として、「あさひかわ 女性のキャリアの保健室」を一つ目の提案とします。

【スライド 12・スライド 13】

我々の二つ目の提案は、「すみまセンエン THANK YOU プロジェクト」です。

どういうプロジェクトなのか具体的に説明をしていきます。

課題の中で挙げた共働き世代への支援策としてこのプロジェクトを立ち上げたいと思っています。

【スライド14】

子育てをしながら働く女性は、時短勤務で残業ができなかったり、子どもの病気等でどうしても早退しないといけないことも多くあります。そして、働く女性にヒアリングを進める中で、そのこと自体というよりも、そのことで周りに迷惑をかけてしまう、申し訳ないという感情が精神的負担になっているということが分かりました。

また、サポートする側としても、元々男性が多い会社では理解できる人が少なかったり、理解はしていても忙しい時期になるとどうしても不公平さを感じたりすることが態度として表れてしまったりするというものもあるそうです。そういったことが女性の退職やキャリアを止めるということにつながっています。そうならないためにもサポート制度をつくれなにかという思いからこのプロジェクトを考えました。

【スライド15】

具体的な事業内容としては、「すみまセンエン・サンキューチケット」と「こそだてっぴー認定制度」の両輪で進めます。

すみまセンエン・プロジェクトは、育休から復帰した女性に対し、子どもが3歳になるまでクーポン「すみまセンエン・サンキューチケット」を月2万円分配付します。費用負担については、取組を行う企業と旭川市が1万円ずつを負担します。

こそだてっぴー認定制度はプロジェクトの協賛企業を認定する制度で、「すみまセンエン」はこの認定企業で使うことができます。認定要件は、地元企業であること、子育て応援する企業であることという二つの基準を設けます。

この二つの取組をリンクさせることにより、企業が子育て女性社員支援に積極的に取り組む仕組みづくりをしたいと思っています。こういう支援に対して、旭川ではなかなか理解や予算の問題で取り組める企業は少ないと思います。そういったところをまずは行政がカバーしていくという形をつくれればと考えています。

【スライド16】

次に使用例について説明します。

「すみまセンエン」は認定企業で1枚千円のクーポンとして利用できます。

例えば、保育園から「お子さんが熱を出しました」とお迎え要請が来たときに、仕事を変わってもらった同僚に「すみまセンエン」を渡して、次の飲み会で地元の居酒屋で使ってもらうとか、保育園のお迎えのために、忙しい時期でも残業できない自分をいつもフォローしてくれる同僚に対し、すみまセンエンで地元のお菓子を買って日頃の感謝を伝えるなど、職場での「持ちつ・持たれつ」の関係を作るために役立てていきたいと考えています。

【スライド17】

ターゲットと費用についても御説明します。

ターゲットとしては、子育てしながら働く女性とその方が働く企業、そしてそれを応援したい地元企業です。この3者がそれぞれの立場で参加することで、旭川市の子育てしながら働く女性の労働環境を改善し、女性が中長期的に活躍できる旭川をつくっていききたいと思います。

そして、我々は実現可能かを検討するために予算案も作成しました。予算額は、ズバリ3億

2千4百万円です。これは、3歳未満の保育施設利用者数を元に試算した費用になります。

今津市長、いかがでしょうか。このプロジェクトを是非次年度の予算に盛り込みをお願いします。

【スライド18】

最後になりますが、このプロジェクトにより私たちは支える側も支えられる側もお互いがお互いのことを思って働ける旭川をつくりたいと思っています。

私たちは、子どものことで仕事を休むことを申し訳なさそうに「すみません」なんていう必要はないと思っています。

でも、現実とは違って、『すみません』『すみません』と言いながらストレスを抱えて働いている女性や、そのことによりキャリアをあきらめている女性が大半なのが今の旭川の現状です。

このプロジェクトを通じて、お互いの理解を深め、いつの日か子育てしながら働くことを『すみません』ではなく『ありがとう』と言える旭川と一緒にやってつukっていきたいです。そのことが今後の旭川の発展、女性の活躍につながるとと思っています。

【スライド19】

「女性のキャリアの保健室」と「すみまセンエン・サンキューチケット」で女性の活躍をぜひ応援しませんか。

旭川市が、小さな取組から大きな取組までを積み重ね、女性が「女性だから」という性別を意識せずに活躍できる社会の仕組みや環境づくりを推進することが我々市民の願いです。

以上、女性活躍分野からの報告です。御清聴ありがとうございました。

(市長)

トップバッターということで、明るく、元気よく、素晴らしい御提言を頂き、ありがとうございました。

女性活躍の真のあるべき姿や、課題を抽出していただいて、その解決方法を具体的に二つ、しかも予算も考えていただいて、本当にありがとうございます。

「女性のキャリア保健室」は、曜日ごとの提案をしていただけていますが、今までは、悩みがあっても相談するところがなかったということなのでしょうね。皆さんが思いを共有しながら、そういうつながりの中でやっていたということですね。

非常に細かく分けていただいて、起業だったり、お金のことだったり、健康のことだったり、こういった悩みがあるのだと、切実な悩みを私自身も感じました。

いきなりスタートして、月曜から金曜までというのは難しいかもしれませんが、例えば、コミュニケーションの相談を隔週でスタートするとか、12月は健康のことにしますよ、1月は別のことというように、少しゆとりを持ちながらスタートすることで実現が可能なのではないかと感じました。

「すみまセンエン・サンキューチケット」は、まずは、自分の似顔絵を描いていただいてありがとうございます。

こちら、先ほどの話と重複する部分がありますが、すみませんと言わなければならないという引け目のようなものを感じながら子育てされているのだなと思いました。私も4人の子ど

もがいますが、改めて妻に感謝したいと思います。

「すみまセンエン・サンキューチケット」の目的は、まさにスライドの効果の部分に書かれているように、金銭的なことではなくて、子育てしながら働くことに「すみません」ではなく「ありがとう」と言える社会の環境整備をいかにできるかということだと受け止めました。市役所の中から変えていく取組をスタートしていますが、そういった取組を市役所が成功させて、民間の方に広げていく取組を進めていきたいと思っています。

私自身も、家庭での役割があり、今までは誇らしくやっていましたが、まだまだだと痛感しました。同時に、やはり男性の参画も必要と思いましたので、協力体制を構築しながら女性活躍を推進していきたいと思っています。今日頂いた御意見は、女性活躍推進部でしっかり進めたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

イ 障がい者スポーツ分野

(参加者から報告)

【スライド１・２】

障がい者スポーツ分野の発表をさせていただきます。

障がい者スポーツは、近年ではパラスポーツと呼ばれるようになっていきます。私たちは、「旭川を世界に通用する『パラスポーツ』のメッカに」というテーマを掲げました。旭川市は道内や日本各地から比べると、障がいのある方々も気軽にスポーツができるという環境がある程度整備されたまちでもあります。

【スライド３】

私たちは、旭川市パラスポーツまちづくりビジョンということで、気軽に公共施設にアクセスできる旭川市のユニバーサル化を図っていただけたらいいなということを話し合ってきました。

障がいを個性と認識できること、多職種で連携ができることが、誰もが住みやすいまちにつながるのではないかと考えましたが、なかなか「障がい」という言葉を聞いて、自分自身から少し離れた言葉と考えたり、感じたりする人たちが社会にはまだ多いのではないかと思います。

今日、会場に車で来られた方がいると思います。また、普段からスポーツをされている方、御家族がスポーツをされている方もいると思います。もしかすると、今日帰る途中で交通事故に遭って車いすを必要とすることになるかもしれません。病気をして視覚に障がいが残って移動するのも困難ということになるかもしれません。自分の身内に発達に障がいのある子が生まれてくることもあるかもしれません。そのようなときに、スポーツをしたいと思う人たちが障がいを理由にスポーツができないということにならないように、私たちは自分たちの未来に向けた投資のつもりでパラスポーツを推進してきて、旭川はスポーツをしやすいまちになりました。それをまちづくりに位置付けて、スポーツのしやすいまちが誰もが住みやすいまちであると考え、このようなまちづくりをすることで人口や観光客が増え、それに伴って商業も活性化するのではないかと考えました。

そのようなお話をさせていただいた上で、決して自分たちとは全く無関係な話ではないということをもまず感じ取って、この後の話を聞いていただけたらと思います。

【スライド4】

ロードマップということで考えましたが、このようになったらいいなということでまとめました。

【スライド5】

どうしても障がいのある皆さんは、移動の手段が課題になったり、公共施設やスポーツ施設に階段があって利用できないことがあります。ほかの町に行くと、車いすユーザーが体育館を使おうとした時点で、「タイヤの跡が残るのでやめてください。」などと言われることもあります。

【スライド6】

旭川市ではそのようなことはありませんが、目標として、移動支援サービスの充実、ハード面だけでなく働く人に対する教育といったことを考えました。また、新たに作られる公共施設においては作ってから聞くのではなくて、作る前の段階から車いすユーザーも一緒になって設計に関わるといったユニバーサル化を図っていただけたらと思っています。そうすることによって、商業が活性化したり、医療費が削減できたり、観光客の増加といったことにつながっていくのではないかと考えています。

パラスポーツということですが、障がいがあることでどうしても医療にかかる方がいます。先天性の障がいのあるお子さんへの教育も必要となってきます。誰もが一緒になってスポーツをしたり、共生社会の充実を目指していくにも、どうしても教育の力が必要になります。IT技術の進歩により見えないものが見えるということができるようにもなってきました。そうするともものづくりとかコンピュータとかに携わることができます。それから、施設を使うときにはスポーツ課や障害福祉課、公園を使うときには公園みどり課というように、色々な分野の皆さんのお力が必要になってきますので、トータルした取組なのだと思っていただけたらいいなと思います。

【スライド7】

次に、教育の世界にもパラスポーツを導入していただきたいと思います。

学習指導要領の体育編の解説の中にも障がい者スポーツの体験について示されていますが、今の学校で、トータルの授業時間の中でパラスポーツまでとなると先生方も大変だとは思いますが、そこを何とか旭川市は率先して取り組んでいただけたらと思います。

あと、知らない方も多いと思うのですが、旭川市は10校以上高校がありますが、エレベーターがある学校は1校しかありません。これまで、車いすユーザーのお子さんは大体が岩見沢の高等養護学校に進学していました。でもやはり、友達と離れて、自分の住んでいるまちから離れてしまいますし、これまで平日の夜にスポーツをしていた子も通えなくなるのです。だからこそ市内の高校に通いたいと言ってもエレベーターのある高校が1校ですし、ほかの学校に通いたいと思って結局は設備の問題で通えない子たちが多いです。そのあたりも含めて、旭川はパラスポーツだけでなく、障がいのある子たちがやりたいことをできるということを教育の中で推進し、取り組めるようにしていただけたらいいのではないかと話し合っ

きました。

【スライド 8】

具体策として、旭川にゆかりのあるパラスポーツ関係者がどんどん学校に行って、パラスポーツ教育を行うということを挙げていますが、今回の会議では、旭川にいない、パラリンピックに出ているような元アスリートともオンラインで話し合って、「そういう機会があったらどんどん力をお貸しします。」という話も頂いています。

【スライド 9】

三つ目になりますが、市役所にパラスポーツの担当部署を設置していただきたいという話もしました。

これまでパラスポーツを振興してきた多くは、障がい者スポーツ指導員という資格を持つ方たちで、大体皆さんに本業があって、仕事が終わった後や休みの日を使いながら活動しているのですが、そろそろ限界が来ています。全てボランティアで行っていて、家庭の中でも怒られながらやっている人がいます。

是非、例えば、ネットワークを作り市が事務局として旭川のパラスポーツの関係者が連携を進めるというような私たちのできない部分を担っていただけると非常に良いと思います。

そこから広く市民の皆さんにパラスポーツや共生社会を目指すための情報発信を行っていただけると、取組が進むのではないかと考えています。

【スライド 10】

今までも私たちパラスポーツの関係者は、将来に向けてどうしたらいいかと考えながら話し合ってきましたが、今回、未来会議で障害福祉課やスポーツ課といった市の関係者の皆さんと一緒に話し合うことができて非常に良かったと思っています。是非、これからも継続して話し合いを持つ機会を作っていただけたらいいのではないかと思います。先ほどのロードマップも2030年を見据えて作成しましたが、年々、環境や世の中が変わっていきますので、お話をしながら進めていかなくてはなりません。1回会議をやったからそれでいいということにはならないと思いますので、そのあたりも含めて取組を進めていただけると非常にありがたいと思います。

【スライド 11】

最後になりますが、今回私たちの方で最終的に何が言いたかったのかということをもとめました。

「パラスポーツのメッカを目指すために、市役所の内部に担当部署を作る」ということについて、今までも担当される方はいたのですが、部署が変わるとまた違う方が来て、引継ぎがうまくできなかったのかもしれませんが、コロナの関係もあって、気が付いたらほとんど知らない方が担当になっていたということもありましたので、そうではなくて、やはり市役所の皆さん方と市民の皆さんが連携していくための中心は市役所の方で担っていただけないかと思います。

それから、「パラスポーツ教育の価値を高め、旭川市民の心のユニバーサル化を図る」ということについては、一人一人が心のどこかでユニバーサル化を考えていただけたらいいと思います。

す。例えば、普段歩いている時に「助けましょうか。」と声をかけるなど、どんな場面でもいいので、ユニバーサル化を考えていただくと、住みよいまちになっていくのではないかと思いますので、そのあたりを進めていただきたいと思います。

あと、私たちは、パラスポーツのメッカとは、スポーツを通した共生社会の在り方の一つと考えています。そのためには様々な仲間が集える機会を作るということで、今回の未来会議では少ない人数でやりましたが、もっと多くの人が一堂に会して交流会をしたり、親睦会を行ったり、それから色々なスポーツの皆さんや、スポーツとは関係ないけれども文化など色々な方へと輪を広げて、最終的には誰もが住みやすい旭川を目指していきたいと思っています。

最終的にはこのようなことを考えていますので、また次年度、そのまた次の年も会議を旭川市の方でやっていただけると非常にうれしく思いますので、継続してよろしくお願ひしたいと思います。

(市長)

貴重な御意見ありがとうございました。

一つ目のユニバーサル化については、今回参加いただいた皆さんが、大雪バリアフリー研究所やパラスポーツ協議会などでかねてからずっと取組を進めていただいたおかげで、旭川は他の地域より進んでいるのだと思います。これからも既存の施設はしっかりと改善をしていきたいと思ひますし、新しい施設についても皆さんの御意見を頂いてしっかり進めていきたいと思ひます。

教育へのパラスポーツの導入について、私も職業柄皆さんと接する機会が一般の市民の方より多いかもしれませんが、総じて皆さん元気です。非常にエネルギーがあるといつも感じています。今野さんが「少し距離があるのかな」とおっしゃったということは、おそらく市民の方々には今まで接点がありませんでしたのではないのかと感じています。ちょうどタイムリーですが、日本財団のパラスポーツセンターの会長はじめ皆様にお越しいただいて、こちらのテーマでもあります「教育にパラスポーツ」ということで、今、教育委員会で具体的に進めているところです。まずは小学校から始めていきたく思ひます。何せスポーツは仲間と出会えます。一気に距離が縮まるということもありますし、思いやりの心、寄り添う心も育まれます。私も車いすフェンシング、車いすテニス、ボッチャ、シットスキー、ラグビー、それからパワーリフティングもさせていただきましたが、新しいスポーツの感覚というのは本当に新鮮でありましたし、スポーツが変われば作戦なんかも変わってきます。本当に子どもたちにとっても心のバリアフリーのいい経験になりますので、しっかり進めていきたく思ひます。

最後の市役所にパラスポーツの部を設置することではありますが、やはり市役所だけではもったいないなという気がして、これは市民の方々も大きく巻き込んで進めていければいいのかなと思ひます。その課題の中で、パラスポーツ課という御提案を頂きました。たしかに、スポーツ課と障害福祉課の中で混在していて分かりづらいこともあるかもしれませんが、これからパラスポーツのメッカを目指していく旭川として、しっかりそういう組織体制も含めて支援をしていきたく思ひます。

ありがとうございました。

ウ ものづくり分野

(参加者から報告)

【スライド1～4】

ものづくり分野の発表をさせていただきます。

テーマは「愛される食」ということで、食関連産業の活性化ということだったのですが、まず、大切にしたいポイントを抽出していききました。

【スライド5～6】

キーワードとしては、「食」は関係する裾野が広い分野なので、うまく盛り上げればまち全体が盛り上がり鍵になるといったことや、旭川産の野菜は少量多品目で品質が良いという強みがあるので、こういうポイントとかも伸ばせたらいいなと思ったり、あとは、これは印象になるのかもしれませんが、ブランド力の強い農産物が少ないのではないかという言葉もあったので、こういうところをしっかりと整理しながら会議を設計してきました。

【スライド7～10】

今回の会議の流れなのですが、「食」を支えている専門家が10名集まって議論させていただいた会議になっています。

会議自体が4回あったので、デザイン志向の実践的なフレームワークを使って、アイデアを膨らませたり、一度縮めてみたりして、今日アイデアとして持ってきました。

【スライド11～19】

たくさんの言葉とかアイデアとかみんなの意見を抽出していったら、色々な形に組み合わせたりしてアイデアとしてブラッシュアップしてきました。

【スライド20～38】

こういったことを何度も何度もやっていくと、食に関するもので解決しなくてはならないものがだんだん見えてきたので、そもそも未来会議は何のために議論するのかということに立ち返っていくと、やはり私たちが子どもたちに渡したいと自分自身が誇れる地域にしていきたいというアイデアをベースに、食という切り口で考えようという話になっていきました。

【スライド39～42】

今日来られている石川CDPの株式会社KESIKIのフレームワークを使って、どうしたら私たちは旭川の未来を担う子どもたちに対して、今の旭川を支えている私たち自身が自分たちが思っている地域愛とかアイデアとか、ここにいる皆さんと共創することで自分たちが自信を持てたり、にぎわいのある地域がもう一回生まれ変わることができるのだろうかというところを考えようというアイデアとして、大きいアイデアを食、食育、観光、情報発信、買物公園といったものを掛け合わせて地域を盛り上げる、食を盛り上げるということができたらいいなと考えています。

【スライド43～45】

買物公園は日本初の歩行者天国ですが、昔は道路という時代がありました。やはり行政と民

間がタッグを組んでみんなでまちを盛り上げていこうという、これだけ多くの人たちが集まってできたものなので、今はにぎわいも少ない状態ですが、もう一回盛り上げていけたらいいよねというところで、日本初の歩行者天国を世界の食と人が集まるような歩行者天国に変えていこうというのが今回私たちが考えた大きなアイデアです。

【スライド46～48】

イメージとしては、先月開催された食ベマルシェのように3日間で80万人と言われていますが、そんなに来る必要はなくて、その10%でも1%でも来てくれるようなまちづくりができれば観光も盛り上がるし、まち全体が盛り上がっていくので、食も結果として盛り上がっていく感じで設計していくといいのかなと考えています。

なので、このアイデアは2030年までには実現できないかもしれないのですが、それに向けて小さいアイデアをたくさんやっていくことで、もしかしたら将来大きいアイデアに結びつくのではないかと思います。

【スライド49～54】

ここからは小さいアイデアをお伝えしたいのですが、まず一つ目に、旭川のフード塾というものを設置して、人材育成をしたり、商品開発や情報発信などを無料で学べるような環境を作っていて、例えば、さんろくの飲食店のオーナーの方が昼の時間に地元の食材をうまく調理できるようなことを学べると、「さんろくってすごく料理がおいしいエリアだよ」ということもできるかもしれないし、生産者と地元の飲食店のオーナーがつながって旭川らしい食材をどんどん観光客に食べてもらえると、それが地域の価値になったりもすると思います。あとは、よくある話なのですが、結婚して移住してきた奥さんが地元の料理をどうやって振る舞ったらいいのだろうかというところもこういう所で学べると、やはり地元の食というのがうまく回っていくような仕組みができるのではないかとこのように思っています。

2番目のアイデアとしては、旭川に特化したグルメ番組ということで、公式のインフルエンサーが毎日旭川の食を発信するというのも考えました。これはできるかできないかわからないのですが、例えば、全国放送の枠を週1回買ってしまったら、毎週旭川の食の情報を全国に届くようにしたらわくわくしますし、今だったらSNSもうまく組み合わせながら食をうまく情報発信していくことも大事だと思っています。

そのほかにも色々あるのですが、個人的に実現できたらすごくいいなというものがあります。旭川市職員の方の昼休憩が前は60分だったのが今は45分で、お昼ご飯を庁舎内で食べる人が多いという話を聞きました。例えばこれを60分に戻すことで買物公園でごはんを食べていただけるような仕組みができれば、毎日千人ぐらいが働いていらっしゃるの、そういった方のお昼ご飯が地元の飲食店とつながってまち全体が盛り上がるということもデザインできるのかなと思いました。そうすると職員の方の幸福度も上がるし、まちも潤うので、うまい循環ができればいいなと思います。

あとは、地域に有料の駐車場ばかりが増えているという印象が皆さんあると思うのですが、そういうのをマイナスのイメージではなく、何かイベントがあるときに受け入れやすいような体制を整えられるというプラスとして考え、例えば、1週間とか1か月に1回、市民の世帯に1枚無料券を配ったりして、駅前イオンや西イオンに行って1日を家族で過ごすうちの10回に

1回が買物公園でごはんを食べようと変わるだけでも地域は変えていけるのではないかなと思っています。

旭川市と近隣8町の連携事業として週末だけでも地域間のシャトルバスがあったりすると、たくさんの人が旭川に来てくれる仕組みができるのかなとも考えました。

取れすぎてしまっている地域食材は、色や形が悪いけれど味はとてもおいしいものもたくさんあるかもしれないので、そういうものをフードトラックのようなものできちんとピックアップしながら生産者と消費者をつなげていくプロジェクトのようなものをやってもおもしろいかなと思っています。

【スライド55】

アイデアのイメージとしては、大きなアイデアがあって、それを小さなアイデアで支えていくような形で、ある程度ステップを踏みながら大きなアイデアの実現を目指していくと、先ほど言っていた買物公園が本当に世界に誇れるような食のストリートになったりするのではないかと考えています。

【スライド56～60】

私たちものづくり分野のテーマは、「愛される食」でした。「愛される食」って何だろうって色々な角度から考えたときに、「私たちの『まち』を『食』と『人』でにぎわう『愛される場所』へと『デザイン』していこう。」という言葉がしっくりくるなということになりました。

これはどういうことかと言うと、私たちは今回食に関わる各業界から集まって、様々なことを様々な角度から考えて提案する機会を頂きました。打合せのたびに出るアイデアが、実現したら私たちの子どもとか旭川の子どもたちに胸を張って旭川はいいまちだよと伝えられると確信するものばかりでした。私たちは今何かを始めたいですし、すぐに動き出したい気持ちでいます。あの人に声をかければいいのか、ここに相談に行けばいいという考えが頭の中ですごく膨らんでいます。もしかしたら既に動き出している人もいるかもしれません。

今から約130年前、旭川は寒冷地という理由で国から米作りを禁止されていたそうです。今は車で少し走れば田園がありますし、窓から望む景色が田んぼという方も少なくないと思います。その当たり前の風景は旭川を開拓してきた屯田兵やその家族が国の方針に逆らってでも私たちが自分たちで作った米を食べたいという強い気持ちが作り上げたものです。

今度は私たちのアイデアに共感して共創してくれる仲間を集めてチャレンジしたいと思います。ここに集まっているほかの分野の皆さんを巻き込んでいけば、旭川がたくさんの人でにぎわって、一人一人が旭川を楽しんで、誰もが旭川の誇れるものを発信して、旭川がどんどん愛される場所にデザインされていくと思います。

私は生まれも育ちも旭川です。小学生の子どもがいて、朝6時から8時ぐらいは大戦争です。上下ばらばらのスエットでごみ出しに行くような普通の市民です。そんな私が旭川のこれからを考えていいのか、こんな大きなプロジェクトに関わっていいのかという戸惑いが最初はありました。ですが、物事のきっかけはきっと誰かの思いや気持ちから始まっていて、それを言葉として出すことが大切なのだと気付きました。その言葉を「出す」と「聞く」の繰り返し旭川を作っていくのだと思います。

御清聴ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございました。

私が感じたのは、小さなアイデアの方が逆に難しく、ビッグアイデアの方が意外とできてしまうかなというふうに思いました。食べマルシェもおっしゃっていただいたように一時期のものでしかないのととてももったいないと感じていて、御提案を聞いてこれだと思いました。

買物公園では、大道芸だったりジャズナイトだったりダンスだったりと色々な取組がされていますが、その都度本当にたくさんの方々が集まって楽しそうにイベントを見つめています。ほかのまちで言うと、肉フェスがあったり、スイーツフェスタがあったり、色々な取組をやっていて、旭川でも市民の方々が行きたい所を求めていると思います。それが買物公園だと本当に良いなと感じたところです。

フードフォレスト旭川構想というものを石川CDPのもとで進めていますので、その関わりを含めて石川さんから一言お願いします。

(石川CDP)

プレゼンテーションを感動して聞いていたのですが、私は皆さんが自分の言葉で自分の思いを語っていたというところが、旭川にとって良い変化なのではないかと思って、中身以上にそこに共感してしまったというところがあるのですが、そういったアクションがどんどん起きていくといいなと思って聞いていました。

フードフォレストに関しては、大きな動きとして今色々なことを考えていますが、まさにこの商店街というのは、復活していくというか人がまた集まる場所になっていくみたいな部分は私たちも是非実施していきたいと思ってます。我々は追い風を吹かす役割でしかないのです、そこで皆さんが、まちで動き始める人たちやこれから動き始めたいと思う人たちを巻き込みながら走っていただけるといいと思います。良い時を共有しながら背中を押すような形で走らせていただければと思います。

(市長)

五十嵐市長が51年前に買物公園は完成ではないと、次世代の方々が新しく作っていけばいいのだということをおっしゃっていました。今、まさにその時が来たのではないかと思います。今後も御意見を頂きながら、愛される食、まちづくりを進めていきたいと思っています。

ありがとうございました。

エ 文化分野

(参加者から報告)

【スライド1】

文化分野の発表を始めさせていただきます。

私たちは本会議において、旭川市民の文化芸術活動の促進に向けて話し合いました。

【スライド2】

まず、文化芸術とは何かについて、提案の背景として簡単にまとめさせていただきました。

現在、旭川市では音楽、美術、舞踊、文学など様々なジャンルの文化芸術活動が行われています。本会議にも多様なジャンルから参加者が集まりました。

文化芸術には、豊かな生きがいを与え、様々な人と心を通じ合えるという魅力があり、文化芸術に触れることで歴史や風土、技術などを学べる、そうした機会でもあります。

また、イベント開催でのまちのにぎわいづくり、子どもが文化に触れる機会や社会との接点の創出など、文化を通じ、「まちづくり」に関する取組や社会貢献にもつながっています。

【スライド3】

一方、文化芸術活動の促進に当たり、課題もあります。令和3年に市が実施したアンケートの結果、多くの文化芸術団体において高齢化が進んでいるということがあります。どうしても旭川の歴史のある取組をしていますので、会員の平均年齢が70代以上の団体が45%にのぼり、平均年齢が30代以下の団体が20%にも満たないという結果になっています。会員数も減少傾向にあります。

【スライド4】

旭川には「音楽大行進」があり、昨年も市制100年の大きなイベントが開催されるなど、文化芸術の素晴らしい取組が数多くあります。それにもかかわらず、アンケートの結果としては若年層を中心とする多くの世代が、旭川市は「文化芸術活動が盛んだと感じていない」ということが分かりました。

理由としては、情報の少なさや鑑賞機会が少ないという声が多く挙げられています。

【スライド5】

文化分野の会議の中でも、「文化芸術団体の高齢化と会員数の減少により、将来的な存続の危機にある。」「情報発信に課題があり、文化芸術活動が市民に十分に浸透していない。」「文化芸術は馴染みが薄く、敷居の高いイメージを市民が抱いている。」といった共通認識がありました。

文化分野では、こうした問題の解決に向けたアプローチの方法を考えました。

【スライド6】

まずは、我々の考えた内容のコンセプトを発表します。

「暮らしに文化、未来に文化」です。

これは、暮らしの中のいつでもどこかに文化芸術活動があるように、まずは敷居の高いイメージのある文化芸術活動に気軽に触れられる機会を設けることで、市民の皆さんの関心を高め、間口を広げたいと考えています。

その上で、興味を持った人が実際に文化芸術活動を行っていくことを後押しするということです。

【スライド7】

「暮らしに文化、未来に文化」。

そんな街づくりの実現のための、文化芸術活動の促進に向けた取組の方向性を四つにまとめ

ました。「情報発信の強化」、「活動の場の充実」、「魅力を伝える工夫」、「文化芸術のコラボ促進」です。

【スライド 8】

方向性の一つ目は「情報発信の強化」です。具体的には、学校へ出張イベントの開催です。学校へ出向き、若い世代に届けていくような接点の場を作りたいと考えています。また、SNSなどの視覚的に効果の高い宣伝、ギャラリーやイベントの全体像がわかるアートマップの作成などで情報発信を強化していきます。

二つ目は「活動の場の充実」です。市有施設の補修や市民が利用しやすい既存の仕組みをブラッシュアップすることで、より積極的な発表機会を創出します。

また、小さな団体でも利用しやすい発表施設の新設や、様々なジャンルの取組を紹介する場を創設することで、今よりも格段に活動がしやすくなります。

【スライド 9】

三つめは「魅力を伝える工夫」です。芸術の魅力を伝えるには、工夫が必要です。作品の制作過程をワークショップなどで体験できる機会や、見方、聴き方、楽しみ方を解説する仕組みがあれば文化芸術の素晴らしさを再発見できます。

最後の「文化芸術のコラボ促進」は、様々な異なるジャンル同士のコラボレーションイベントの計画的な実施です。

また、今回の未来会議のように、他ジャンルの文化芸術に関わる人が集まり、情報やアイデアを交換できる機会を増やしたり、バッジで団体・参加者のそれぞれが興味のあるジャンルを見える化して気軽に話し合えるきっかけづくりをするなどの意見も出ました。

【スライド 10】

ただ今説明しました四つの方向性をもとに、具体的取組を考えましたので発表します。

それは、「市民芸術マルシェ」の開催です。

市民芸術マルシェでは、様々な文化団体が参加者体験型のワークショップや発表、展示などを実施します。

多くの人が旭川の文化に触れ、旭川の歴史文化を知ることができる、異文化、異世代交流の中で文化芸術を体験できる、楽しめる場です。

【スライド 11】

本構想の骨組みについてです。道行く人が誰でも自由に参加できるように、基本的には屋外での開催を考えています。一方、若年層の参加促進のため、学校での出張開催や、運営への学生の参入も呼びかけます。

イベントを彩る工夫としては様々な可能性が考えられますが、例えば、旭川駅周辺や買物公園で実施することで、出展者ブースや露店でにぎわう、誰でも気軽に参加できるような雰囲気にする、プロジェクションマッピングや大型ビジョンを用いて、駅前全体を一つの作品として関心を引き付けるような演出をすることなど、様々な可能性にあふれていると思います。

【スライド 12】

このイベントを通じてたくさんの人に活動の楽しさが共有され、「馴染みが薄く、敷居が高い」という文化芸術へのイメージが打破される、文化芸術活動への理解促進や参加者の増加につながる、このような効果を目指しています。

【スライド１３】

一方、この構想の実現には、具体的な条件を整える時間やお金が必要です。まずは２０３０年までに、最初は小規模でも、これらの要素を加えたイベントの開催を目指します。

また、初回の開催に当たり、「まなびピア」のような既存の取組への組入れも検討します。継続して開催する中で、多くの市民が楽しみに、そして誇りに思える「市民芸術マルシェ」を旭川市と市民の力で育てていく。この取組により、旭川で文化が日常に浸透し、分け隔てなく多くの人の心を文化が輝かす、そのように発展していくことを期待しています。

【スライド１４】

結論としまして、市民の文化芸術活動促進のためには、接点を生み出すことで多くの方の関心を集め、様々な垣根を超えた交流を育む必要があると思います。

そのためには、官民の団体・個人が、「情報発信の強化」、「活動の場の充実」、「魅力を伝える工夫」、「文化芸術のコラボ促進」の四つの方向性のもと、力を合わせて取組を進めていかなければなりません。そのための場の一つとして市民文化芸術マルシェが必要です。

２０３０年まであと７年。まずは複数ジャンルの共同のコラボイベントなどの開催をベースに、実現可能な要素を取り入れながら具体的企画を立て、２０３０年までの初回開催を目指します。

【スライド１５】

最後になりますが、もし将来「市民芸術マルシェ」が実を結んだ結果、新しく何かを始めよう、挑戦しようという文化芸術団体ができる時がきっと来ると思います。その際は、発表の場や必要な情報の提供といった、支援の機会が今よりももっと広がっていることを期待します。

文化芸術の未来の芽を、まち全体が大切に育て、心の表現を大切にする、そんな日常のまちづくりを実現していく。そのための「市民芸術マルシェ」創設を私たちの提案とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございました。

今回は、文化をテーマの一つに掲げさせていただきました。総合計画など市が発行する文書を見ると「北の文化のかおるまち」とよく出てきますが、あまりにも抽象的すぎないかと思ったのが今回のテーマに掲げた一点目の理由です。もう一点が、明成高校の佐藤先生からお手紙を頂いたことがあって、これはおそらく様々な文化団体の方々が市に言いたい意見、あるいは言ったけれども取り入れてもらえなくて本当に悔しい思いをしたということが、おそらくたくさんあるのではないかとということで、今回、様々な文化団体の方に参加させていただきました。

今日は竹中先生もお見えになっていますが、囲碁も小林光一名誉三冠や山下敬吾棋聖など有

名な方がいらっしゃいますので、もっともっと知られていいと思っております。

市民芸術マルシェは、2030年までにはというお話でしたが、すぐやってほしいなと思います。

柴田さんの詩も今日披露してもらいたいぐらいすごく迫力があって私も最初は驚いた覚えがあります。シベリア基地さんの演劇はまだ拝見したことはないのですが、是非一度見てみたいと思います。

音楽大行進や食べマルシェなど、先ほどもものづくり分野のお話にもありましたが、買物公園が舞台になっていくということだと思います。例えば、食べマルシェでも、7条近辺では金魚すくいやパラスポーツができたりするのですが、その横で柴田さんが詩を叫んでいるといったこともおもしろいのではないかと感じました。今日御意見を頂きましたので、日常に文化芸術があふれるような取組を進めていきたいと思います。

森本CDOも、買物公園についてニューオーリンズのような街並みはどうだろうかとおっしゃっていました。ニューオーリンズは、トランペットとか市民の方が自由に吹ける土壤が整っていて、それを市民の方がお酒やコーヒーを飲みながら見たりする、そういう雰囲気があるまちなのですが、そういったまちを旭川も目指していきたいというの也有あります。是非、各分野の方々にもできる部分からそういった市の取組と連動した取組をしていただけるとありがたいと思います。

ありがとうございました。

オ 子育て分野

(参加者から報告)

【スライド1】

私たち子育て分野は、昨年に引き続き2年目となります。

今年は、「自分らしく子育てできるために、みんなでできること」をテーマとして、意見交換や議論を行ってきました。

それでは発表していきますので、よろしくお願いします。

【スライド2】

はじめに、参加者の構成と会議の開催経過についてです。

参加者は、昨年から引き続き参加した子育て経験者の5名に、これから子育てしていく若い4名を加えた9名です。

子育てというと、今まさに子育て中の人のことだけを考えてしまいがちですが、誰もがいつかは子育てするかもしれないし、誰かの子育てに関わるかもしれないことを考えると、子どもがいるいないに関係なく、いろいろな立場の意見を聞くことは大事だと改めて感じました。

次に会議の開催経過です。

会議は全4回開催し、スライドに色を付けてあるとおり、今年の子育て分野の特徴として、テストサンプルを作成して、トライアルを行いました。これは後ほど詳しく説明します。

【スライド3】

それでは、報告内容に入っていきます。

まず、会議に先立って行われたキックオフミーティングの場で、若い皆さんから、「子育てはお金がかかるって聞くけど、どれぐらいかかるのだろう。」、「子育ての話は親からしか聞かないけど、時代も変わってるし、今の人達はどんな子育てをしているんだろう。」、「子育てには憧れもあるけど、自分がやっていけるか不安。」、「今の仕事を続けながら子育てするのは無理無理。」などの率直な気持ちを聞くことができました。

それに対して、子育て世代からは、「私も最初は不安や悩みがあったからよくわかる。でも、旭川にはいろいろなサポートもあるし、助けてくれる人もいるからなんとかなったよ。」、「意外に思うかもしれないけど、旭川は子育てしやすいよ。」といった意見がありました。

こうした、若い世代と子育て経験者の思いや知識をつなぐことで、子育てに対するハードルを下げられるのではないかと考えました。

そして、「必要な情報を知ることができ、希望に応じて多様なサポートを受けながら、自ら計画的に考え、行動し、子育てに前向きになれる」ことを自分らしい子育ての一つの仮説とし、そのために、それぞれが、それぞれの立場で発信したり、できることに取り組みながら、関わり合うことが重要だと考えました。

【スライド4】

そして、「伝える」を提言全体のテーマとしました。

これは、子育てのいい面、楽しい面はもちろん、お金のことや大変なことなど現実的なこともバランスよく幅広く、それぞれの立場で発信していくことで、主体的で自発的な子育てを後押しし、自分らしい子育ての実現につながるのではないかと考えたものです。

【スライド5】

それでは、具体的な提言に入ります。

まず一つめが「旭川での子育てを伝える新たな情報発信のアプローチ」です。現在は、当然ですが、子育て中の当事者を対象とした情報発信が多く、出産前の妊娠中の方や、子どもがいない人には伝わりにくかったり、もしかすると、子育てのネガティブな印象につながるかもしれません。

こうした問題に対して、「子育て中の人も、これから子育てする人も、旭川で子育てしていくことを具体的にイメージできる新しい情報発信の視点」に取り組むことが有効ではないかと考えました。

【スライド6】

この点については、参加者からの、「旭川は子育てしやすい」、「あまり子育ての話聞くことがない」などの意見を踏まえて、子育ての流れをイメージできるように俯瞰的に伝えたり、旭川での子育てにかかるお金のことなどを伝えられたらいいのではと考えました。

【スライド7】

そこで、効果検証のためのトライアルとして、実際に情報発信ツールのサンプルを作成し、モニター調査を実施しました。

作成したテストサンプルは、「あさひかわリアル子育てガイドブック」と「インスタグラムの

テスト投稿」の二つです。このテストサンプルを、友人や知人などに配付し、実際に体験してもらい、オンラインアンケート調査の回答を依頼しました。アンケート調査では42件の回答があり、回答者の属性等はスライドに表示しているとおりです。

【スライド8】

まず、一つ目の「あさひかわリアル子育てガイドブック」です。

既に市が発行している「子育てガイドブック」は、子育ての情報が網羅されており、子育て中の人には非常に便利なものですが、一方で、子育てする立場にならないと手に取らないし、内容も理解しにくかったり、具体的なお金のことが載っていないなど、一定の子育て経験や知識がないと活用しにくい面があると思います。

そこで、もっと簡単にわかりやすく、そしてリアルな「旭川の子育て」を伝えたいと考えたのが「リアル子育てガイドブック」です。特徴の一つが、妊娠前から高校卒業までの主なイベントやお金のことをすごろく形式で表現した「あさひかわ子育てすごろく」です。子育ての将来的な流れを知ることができるので、「お金がかかるなあ」といった不安は感じつつも、計画的に行動しやすくなり、結果的に不安の軽減につながると思います。なお、サンプルのため、金額は子育て分野調べですので御了承ください。

そのほかにも、「子育て目線で見える旭川」、遊び場を「年齢や遊びの目的別」に整理した「子どもの遊び場マトリクス」、若者の不安や悩みにパパ・ママが答えるQ & Aなどを掲載しました。

スライド右側にアンケート調査の結果を載せていますが、総じて好評価で、新たなアプローチとしての有効性を感じたところです。

【スライド9】

また、自由意見では、「子育てすごろくに必要な経費が書かれていて、将来のイメージの参考になった。」、「子どもがいないので妊娠後の流れを理解していなかったが、このすごろくで、見通しを立てることができた。」といった意見がありました。

【スライド10】

次に、テストサンプルの二つ目「Instagramのテスト投稿」です。

旭川市でもSNSを活用した広報は行われていますが、「写真+説明のテキスト」という形式のため、特にInstagramでは「ビジュアルで伝える」という特徴を生かし切れていないと思いました。そこで、より分かりやすく伝えるため、「妊娠がわかったらin旭川」と題して文字入れ画像による投稿を作成して、トライアル期間に限定して公開し、モニターに体験してもらいました。

1ページ当たりの情報量を絞り、文字もビジュアルとして伝えることで、ホームページよりも読みやすく、伝わりやすくなっていると思います。実際に、アンケート調査でも、約8割が「わかりやすい」又は「まあわかりやすい」と回答しています。

また、自由意見では、「身近なSNSで知れるのはいい。」、「初めての妊娠・出産のときにあれば参考になった。」、「Instagramをこのように動かしていけると、ものすごく使える。」といった意見があり、こちらも新たなアプローチとして有効であると感じたところです。

以上が、提言の一つ目「新たな情報発信のアプローチ」です。

【スライド１１】

続いて、二つ目は「あさひかわこどもーるの認知度・利便性アップ」です。

市の子育て情報サイト「こどもーる」をアップグレードすることで、ネット世代である今の子育て世代が情報をより入手しやすくするほか、ハブ（結節点）として、自然と誰もが子育てに関わることができるのではないかと考えました。

また、「子育てはくらし」そのものなので、子育てに関する情報が充実した「こどもーる」をまちのPRでも活用できるのではないかと考えました。

【スライド１２】

この点については、参加者からの「こどもーるは情報も充実しているし、デザインもいいのに、あまり知られていないのはもったいない」、「イベント情報がもっと充実していれば」などの意見を踏まえ、「こどもーるの独自性を生かす」、「子育ての充実はもちろん、観光や移住への波及」などをポイントと考え、提言として整理しました。

【スライド１３】

ところで、皆さんは「こどもーる」を知っていますか。実際のページをスライドに表示していますが、子ども連れでも安心して利用できるお店などが載っていて、現在は600以上のスポットが登録されているということです。皆さんも、あとで「こどもーる」で検索してみてください。

【スライド１４】

デザインもやわらかく、情報量も充分なこどもーるですが、掲載スポットで行われる「イベント情報」が載っていない、会員登録機能はあるけどメリットが少ない、検索機能が使いにくいなどが不便な点といえます。逆に言うと、そういう点をアップグレードすることで、更に魅力的で使えるサイトになると考えました。

具体的には、「イベントカテゴリの充実」、「検索機能の追加、充実」、「新着通知などの会員登録機能の強化」などです。

さらに、場所を知るだけでなく、市内の子育てに関する「人や活動」ともつながれるように、「つながる」という新しいカテゴリの追加も考えました。

こどもーるがハブとなって、「人・場所・活動」が自然につながり、まち全体で子育てを支えるほか、旭川の魅力を伝えるプロモーションサイトとしても活用できるのではと考えています。

【スライド１５～１８】

以上が子育て分野からの提言です。

また、提言として整理したほかにも、たくさんの意見が出たのでいくつか紹介します。

例えば、使用期間が短い子育て用品をリサイクルする仕組みです。ただリサイクルするだけでなく、リサイクルに出す側が「自分の子育てエピソード」や「受け取る側への激励メッセージ」などを添えることで、顔は見えないながらも、子育てを支えることにつながるという意見です。

ほかには、「子どもが歩いて行けるところに居場所をつくる」という意見もありました。例えば、皆さんの町内にある会館や、地区センター・住民センターなどが、子どもがもっと気軽に

立ち寄れる場所になり、そこを利用する地域住民と交流できるようになるといいというものです。

そのほかにも、スライドに表示しているとおり、いろいろな意見やアイデアが出ており、そのどれもが必要であり、重要だと考えています。

【スライド19】

二つの提言をはじめ、会議で出た様々な意見やアイデアが、できることからひとつずつ、形になっていけばうれしいです。

それでは、以上で子育て分野の発表を終わります。皆さん、ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございます。

子育て分野の皆さんは昨年に引き続きということですが、特に昨年はw a k a ・ b aの壁紙や天井、駐車場からの動線など色々なアドバイスを頂きました。改めてお礼申し上げます。

今回は、昨年の参加者に加え、新たに未来の子育て世代の方に参加いただきました。

今日御提案いただいた情報発信のアプローチ、リアルガイドブックもInstagramもすぐにでも始められるような事業だと思います。そのアンケート調査結果もまとめていただいてありがとうございます。今、旭川市の方でも情報発信の強化をしているところで、情報を集めて発信するプラットフォームづくりに取り組んでいて、「くらしのアプリ」というものがあります。こういった中でも是非このような子育て情報を発信していけるといいのではないかと思います。まとめにもありましたように、「できることからひとつずつ」進めていきたいなと思います。

また、その他の御意見のところにもありましたが、私も子どものジャージやスキーなど色々な物を探すのが本当に大変でした。リサイクルショップを回ってやっと身長に合ったスキーがあっても今度は靴が合わないなど、皆さんの共通の悩みだと思います。今日頂いた御意見を少しずつ反映できるように取り組んでいきたいと思ひますし、また女性活躍分野の皆さんと共通の課題があると思うので、是非これから一緒に取り組んでいければと思っています。

ありがとうございました。

カ 環境分野

(参加者から報告)

【スライド1】

環境分野チームから、ゼロカーボンについての提案をさせていただきます。

【スライド2】

旭川市は、令和3年10月22日にゼロカーボンシティを表明しました。内容は、皆さんも御存知のとおり、地球温暖化に真剣に向き合い、2050年までにCO2排出量を実質ゼロにすることを目標としています。

そこで、環境分野チームは、実際に現在のCO2排出量はどのくらいあって、実質ゼロにするためにはどのような取組が必要なのかを話し合いました。

【スライド3】

まず、CO₂排出量の推移のグラフですが、ゼロカーボンへの道のりは大変厳しいものになっております。2050年までにCO₂を実質ゼロにするためには、まず2030年までに、2019年ベースから42%削減する必要があります。

あと7年でCO₂を42%削減するためにはどのような取組ができるのかを再エネと省エネの二つの観点から意見を出し合いました。様々なアイデアが出ましたが、今回は森林関係に詳しいメンバーが多かったこともあり、特に森林の利活用について活発に議論が進みましたので、森林に特化して御提案させていただきます。

【スライド4】

提案項目は大きく分けて三つあります。一つ目は「旭川の再エネ資源である森林の利活用について」、二つ目は「市民に親しみやすい森林づくり」、三つ目は「ゼロカーボンの啓発活動」です。

【スライド5】

旭川市内の森林面積は、40,163ヘクタールで、行政面積74,766ヘクタールに対して53.7%を占めています。上川地方で考えると旭川市の保有する森林面積の約20倍になります。もちろん、この中には国立公園などの国有林なども含まれておりますが、この大きな資源をエネルギーとして活用できることに注目しました。

【スライド6】

木質バイオマスは、燃焼時にCO₂が発生しますが、その原料である樹木はCO₂を吸収・固定します。

また、伐採後の植林によって再び樹木にCO₂が吸収されることから、木材のエネルギー利用は大気中のCO₂濃度に影響を与えない「カーボンニュートラル」な燃料とされています。

さらに、旭川産、上川産の木材を活用することは、輸送で発生するCO₂も削減できることから、かなり優秀なゼロカーボンへの施策ではないでしょうか。

【スライド7】

そこで、一つ目の提案は、森林が豊富にある上川地方として、地域の木材を使った木質バイオマス（ペレット・チップ・薪）を活用した、業務用ボイラーや家庭用ストーブの普及拡大です。

既に旭山動物園などでもペレットを燃料としたストーブなどの設置も進んでおりますが、補助金の拡大やPR活動の強化をすることで、もっと広く市民に興味を持っていただけたと考えました。

なかでもペレットは、旭川家具の製材工場が出たおが粉を使用する工場が市内にあるなど、旭川ならではの地産地消のエネルギーとして注目されていくのではと期待しています。

【スライド8】

森林の役割は、CO₂の吸収だけではなく、大雨などによる土砂崩れなどの防止機能や保水機能など、様々な役割を果たしています。

そのほかにも、多岐にわたる恩恵を受けている森林を守ることは、我々の生活を守ることにつながっています。

【スライド 9】

そのような大切な森林も、人の手で適切に管理しなければ、そのパフォーマンスを十分に発揮することはできません。

伐期を迎えた木は、CO₂の吸収量が減るだけでなく、倒木の恐れが出てきます。持続可能な森林管理の為に、地権者の理解促進に向けた取組や、市民への啓発活動もともに進めていく必要があります。

隣町では、住宅を新築する際に地元木材を使うことで補助金を出したり、子どもが生まれると地元木材で作った椅子をプレゼントするなど、町民と森林の結びつきが生まれるような取組をしています。

【スライド 10】

旭川市でも色々と実践していますが、市民が森林をより身近に感じる施策として、二つ目の提案をさせていただきます。「あさひかわ市民の森の設立」です。

ゼロカーボン旭川のシンボリックな場所として、市民による市民の為に市民の森を育てることは、環境問題を市民が自分事として捉え、意識改革や行動するきっかけの場になると考えます。

また、市民の森の設立にあたり、森と市民活動の融合と調和が図れるような設計にすることで、サステナブルデザイン都市旭川としても発信強化できるのではないのでしょうか。

さらに、少しずつ新しいスペースができたり、自分達で作り上げていくことで、いつまでも市民に愛されるサステナブルな森になると考えます。

場所は市有林の中から選定することになりますが、例えば、現在ある、21世紀の森やカムイの杜などの既存施設をリニューアルすることで、コストは抑えることができると思います。

【スライド 11】

最後に、市民の森を舞台とした、ゼロカーボンの啓発活動の提案をさせていただきます。

ゼロカーボンを実現するには、植樹活動はもちろん、様々なイベントを企画・実施することで市民に親しみやすい森として、森林保全活動に前向きになってもらうことが必要です。

その為には、環境部だけではなく、あらゆる部署や民間企業も積極的に取組を企画していかなければなりません。

【スライド 12】

市民の森の活用案の一例を御提案いたします。

先日、苫小牧で「とまこまいミライフスト2023」が開催されました。フェスの音源の電源などを水素から供給するなど、まさに環境に配慮されたイベントであったようです。

旭川でも、昨年、市制100年イベントでは、スタルヒン球場で開催されたライブイベントに多くの人が集まりました。このようなイベントをあさひかわ市民の森でできる環境を整え、環境に特段配慮した形で開催することで、北海道、日本、世界に旭川市の取組や魅力を発信できると考えます。

実現するためには大きな費用がかかると思いますが、例えば、チケットをふるさと納税の返礼品にするなど、行政と民間企業、市民が協力してアイデアを出し合えば実現できるのではないのでしょうか。

是非、環境課題に取り組むことが、地域にお金を生む仕組み作りになることへのチャレンジとして御検討いただきたいと思います。

【スライド１３】

今回、この未来会議で様々な分野の課題が出てきましたが、それらをあさひかわ市民の森で実行してみませんか。今回の場所が、ゼロカーボンシティを目指す旭川の象徴的な場所になることを願っています。

【スライド１４】

以上、地産地消エネルギーである『森林』活用・保全の重要性の再確認と、市民に向けてシンボリックな場所である『あさひかわ市民の森』を作り、ゼロカーボンシティに向けて市民の意識の醸成を図ることを御提案いたします。

是非、我々市民の声を形にいただき、一体感を持ったゼロカーボンシティを共に目指し取り組んでいきましょう。

【スライド１５】

最後に経過についてです。

環境分野の参加者は、環境に関わるお仕事や活動をしている方や、環境に関心の高い方です。

これまでに４回の会議を実施し、１回目と２回目の会議では現状分析と課題についての意見交換、３回目の会議では具体的な取組について意見交換、４回目の会議で報告会の資料作成について話し合い、意見の取りまとめを行いました。

御清聴ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございました。

今日は、２０５０年までのゼロカーボンを数字で分かりやすく示していただきありがとうございます。

私自身は、仕事柄海外に行く機会が多いのですが、なぜこんなに冷房が効いているのか、自分たちの省エネが嫌になるくらい、電力を消費している国々が意外とあります。

旭川も災害が少ないと言われていましたが、今では大雪や大雨、台風も来るようになってきましたし、猛暑もあります。環境問題は待ったなしだと思いますし、本当に色々な意味で一人の１００歩よりも、１００人の１歩が大事だということを痛感しています。

今回頂いた御提案ですが、森林資源の活用ということで、ペレットストーブのお話もありました。おかげさまで、薪ストーブとペレットストーブは補助金が足りないくらい希望者が多いので、これは強化していきたいと思います。また、ヨーロッパでは灯油みたいにペレットを配達する車があるということですから、将来的にはモデル地区なども作りながら、旭川の端材でペレットを作って、そして地域の燃料はペレットで補うというようなことも取組として進めてい

きたいなと思いました。

市民の森については、今まで桜やナナカマドの植樹を行ってきておりますが、一つの象徴的な場所があると、子どもたちの教育に対しても非常に良いと考えましたので、こちらもしっかりと検討を進めていきたいと思います。

あと、ロックフェスは少し意外でした。ロックフェスといえば、電気をたくさん使うというイメージがありますが、これを逆手にとって環境問題を訴えるというのも非常に興味深いなと思いました。

様々な取組が環境では大切だと思いますので、今日頂いた御提言を生かして進めていきたいと思っています。旭川は家具も70%が道産材を使っている、五大家具産地の中でこんなに地元の木材を使っているということが非常にまれな家具の一大産地であります。やはり先人の皆さんが切って使って、植えて育てるという循環システムを構築してきたことが今につながっているというふうに思いますので、旭川の特性を生かした森づくり、そしてまちづくりにつながるように、しっかりとこの環境問題も取り組んでいきたいと思っています。

どうもありがとうございました。

(3) 総評

(森本CDO)

この未来会議は、去年もいくつかの分野別会議と報告会を見させていただきました。

今年は去年に比べて相当レベルが上がっています。皆さんの討議された内容、作られたスライド、更に発表の仕方がものすごくレベルが高かったです。

それぞれのテーマについて担当課があって、皆さんの中でこれから具体的にしなければならないことも出てくるとは思います。デジタルのことでなくてもいいので、是非御相談していただき、今回頂いた提案をどのようにしていったらいいかを一緒に考えていければと思います。

参加者の皆さん、担当課の皆さん、約半年間頑張ってください、本当におつかれさまでした。

(石川CDP)

プレゼンテーションがすごく刺激になり、学びに満ちた時間となりました。とても未来に対しての具体的な提案になっていたのも、是非これが次につながっていく形で進んでいけばいいなと思いました。

三つぐらい感じたことがあったのですが、一つ目は、我々東京の方でもやっている政策デザインです。それは何かというと、私から始まるんだというのがあり、皆さん一人一人が今感じている違和感というものが、実はまちの政策になり得るということに自信を持っていただいているのだと今日改めてすごく思いました。

二つ目が、共通の課題というのがやはりあって、テーマが分かれているようで、実は根っこ部分は一緒にやればいいのか、同じ課題が後ろに控えているのではないかとこのところが見えてきたと思っています。一緒にこうやって共通の未来を変えたいという仲間がいるということがコミュニティの価値をここから広げていく可能性があると思いました。

最後は、皆さんはデザイナーだと思ったということです。人に共感する力というか他者に寄

り添う力がすごくあると思ったので、そこが地域にいる誰かの未来を変えていこうという力で、デザイナーに一番必要な力ということで、ここにいらっしゃる皆さんデザイナーだなと勝手に思っていました。

最も市民が市政に近いまちなれそうな気がして、それが世界にすごく誇れると思ったので、是非引き続き協力できることがあればと思います。

(4) 市長お礼のあいさつ

(市長)

今日は様々な御提案を頂き、また、今日に至るまでそれぞれの思いをもって会議を進めていただいたことに心から感謝申し上げます。

旭川には色々な素晴らしい財産がありますが、旭川のことを思って行動する方々がいてくれることが何よりの財産なのではないかということを強く感じました。

今日頂いた多岐にわたる御意見を、これからの市政にしっかりと生かしていきたいと思えます。今日改めてお伝えしたいのは、私たちは今日頂いた御意見に一つ一つしっかりと向き合っていきたいと思えます。これだけ皆さんが真剣にこのまちのことを思って考えていただいたのに、今日だけで終わらすということではなく、しっかりとこれからも検討を続けたいと思えます。あえて皆さんも、今日提言したことが市でどうなっているかという厳しい目で私たちを監視していただきたいと思えますし、引き続き御意見を頂きたいと思えます。

ただ、今日頂いた御意見はどれも素晴らしいですが、決して行政だけではなし得ることはありません。もとより皆様の御提案を行政の職員と一緒に取り組んでいくことで皆さんの思いが実現できることになっていくと思えますので、今後も皆様の御指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、各分野の会議を通じて、市の職員とも親しくなっていたいたと思います。私も市長になって思うのですが、自分が「こういうことをやりたいのですがどうでしょう。」と言ったら、何通りものパターンを出すのが市職員です。今日のことも、おそらく職員の知識や経験の中で政策として反映していくと思えます。私も次年度の予算編成に向けて、そのような提案を受けながら、この政策の裏には市民の方々がいるのだということを決して忘れずに取り組んでいきたいと思えますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

この度の旭川未来会議2030へ御参加に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。